

ゼミナール紹介

担当者名	新井立夫								
e-mail アドレス	tatsuo@bunkyo.ac.jp								
研究室	3 5 3 8								
在室曜日・時限	月：1、4、5 水：5								
個別説明会（日時・場所）	メール等で、問い合わせをしていただければ、随時、個別対応いたします。								
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	11/6	11/13	11/20	11/27	12/4	12/11	12/18	1/18
	可否	○	○	○	○	○	○	×	×
	場所	1201	1201	1201	1201	1201	1201	卒論	卒論
2024 年度担当科目	基礎簿記演習、キャリア形成、商業科教育法Ⅰ、商業科教育法Ⅱ、総合演習、教育実習B（高校）、教育実地研究、教職実践演習、キャリア・職業指導、インターンシップ、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ、卒業研究、公共経営実地演習、教職概論、生徒指導・進路指導論、知へのナビゲーション								
選抜方法	提出書類、成績及び面接結果等を総合的に勘案して選抜を行う。								
ゼミナール紹介	<p>本ゼミナールですが、学校種を問わず教員を目指し、教職課程を履修登録している学生は、新井ゼミの履修を必ずしてください。</p> <p>民間企業を目指す学生で、キャリア教育（進路指導含む）及びキャリアカウンセリングの必要性を認識し、企業の人材育成の仕事に従事したい者。</p> <p>公務員を目指す者やNPOなどの団体に就くことを目標とする者、あるいは、将来「キャリア・デベロップメント・アドバイザー」などの取得を目指す学生に履修してほしい。</p> <p>学習は、キャリア教育の意義、必要性を理解することから始まり、キャリアカウンセリングの理論や演習を通し、キャリアコンサルティング、キャリアアドバイザーなど「他人のキャリアを支援する」専門職に就ける人材育成とともに、「自分のキャリアを見つめなおしたい」という目的などを体験的に学び、キャリアビジョンを描き、意図的に行動し、実践できるようになることが、到達目標である。また、必要に応じて研究発表会、ゼミ遠征（湘南校舎、越谷校舎等）、自主的な勉強会を実施するものとする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①授業中に明示する重要なポイントを概ね理解できる。</p> <p>②キャリア教育・進路指導の実態とその課題を理解できる。</p> <p>③キャリアカウンセリングの必要性を認識し、職業をめぐる諸問題を多面的に学習し、進路指導・キャリア教育の推進のなかで実践できる。</p>								

ゼミナール紹介

担当者名	青木 勝一							
e-mail アドレス	masa@bunkyo.ac.jp							
研究室	3402							
在室曜日・時限	月曜日 4 限 木曜日 3 限							
個別説明会（日時・場所）	ゼミナール説明会（12月4日（水）12:30～13:00）で概略を説明します。それに参加し、さらに疑問や分からないことがあれば、上記 e-mail アドレスに連絡し、アポイントをとって、質問に来てください。							
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	11/6	11/13	11/20	11/27	12/4	12/11	12/18
	可否	○	○	○	○	○	○	×
	場所	1302	1302	1302	1302	1302	1302	
2024 年度担当科目	公共経営入門、公共経営論、地域経営論、ソーシャル・イノベーション論、経営学特論 B、知の探究、知のリテラシー、ゼミナール I、ゼミナール II							
選抜方法	成績、希望調書、場合により面接を行う。成績が同等の場合、希望調書の内容、青木担当授業（「知のリテラシー」は除く）の履修状況を勘案します。							
ゼミナール紹介	<p>本ゼミは社会的課題の課題に積極的な役割を果たしたいと考える人に対し、様々な社会的課題をとらえ、考える能力を身につけること目的とするものです。大きなテーマは「地域の公共政策」です。2年生の「知の探究」で青木の授業を履修している人は、そのアップグレード版とイメージしてもらおうのが分かりやすいかもしれません。以下、主な注意点を述べます。</p> <p>1) 本ゼミに適した履修者は、第一に「公務員志望者」です。次に、「公益団体（財団法人、社団法人）」や「NPO 法人」への就職を志望している人にも適した内容です。こうした人にはぜひ青木ゼミを選択していただきたいと思います。また、企業に就職する場合も「地域密着」や「社会貢献」に非常に興味があるという人はウェルカムです（例えば、地方銀行や地方交通機関など）。</p> <p>2) 当ゼミは卒業論文の作成を必須としていますので、最初から卒論の作成を考えていない人には適しません。ゼミでの報告は、卒論作成前提の調査となりますので報告に際してはそれなりの水準を求めています。加えて、統計データを扱うことが多いため、Excel の基本的な操作はできるという前提で報告の課題を出すこととしています。</p> <p>3) ゼミでは「地域の社会的課題とその課題解決のための政策」について、3年生は各自の関心に基づき幅広いテーマを扱い、4年生は卒業論文のテーマに絞ることを基本とします。テーマは参加者の関心に基づき開講時に決めます。</p> <p>4) ゼミでは毎回の担当を決め、テーマ（産業、市街地再生、子育てなどの政策）について、調査報告を行います。「実践」重視ですので、調査に際しては制度、統計、実務現場での現状、利害関係者の関係などに基づき検討することとなります。</p> <p>5) 報告後の残り時間は、報告に基づくゼミ生同士でのディスカッションと補足説明に充てます。主体的な参加やグループワークを行えるかどうかはゼミでの満足度に関わりますので、その点は注意してください。</p>							

ゼミナール紹介

担当者名	浅川 雅美							
e-mail アドレス	asamasa@bunkyo.ac.jp							
研究室	なし							
在室曜日・時限	あだち校舎への出校日は月曜日です。							
個別説明会（日時・場所）	事前に、メールをいただければ、月曜日（あだち校舎出校日）の午後に、個別に対応致します。または、別日でもオンラインで対応します。							
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	11/4	11/13	11/18	11/25	12/2	12/9	12/16
	可否	否	可	可	可	可	可	可
	場所	1101	1101	1101	1101	1101	1101	1101
2024 年度担当科目	消費者行動論（経営学部、湘南校舎共通教養） 生活と広告（湘南校舎共通教養）、 個人と社会（湘南校舎共通教養） 社会調査の統計学（情報学部） ゼミナール（経営学部）							
選抜方法	ゼミ内容と志願理由の適合性および成績によって選抜します。							
ゼミナール紹介	<p>3 年次は、1～4 人単位で以下に示すように、テーマ設定、調査票作成、調査実施、解析、プレゼンテーションをします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査のテーマを決めるために、実際の論文を検索して、読んで、その内容を把握する。 ・研究テーマを決定する。 ・調査票を作成する ・調査実施 ・データを集計・解析する ・プレゼンテーションをする <p>4 年次には、①3 年次に研究した内容を論文にまとめる、②3 年次に研究した手法を用いて好きなテーマで再度調査を行う、のいずれかを選択していただきます。</p> <p>どうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p>							

ゼミナール紹介

担当者名	石田 晴美							
e-mail アドレス	ishida@bunkyo.ac.jp							
研究室	3519 研究室							
在室曜日・時限	水・木・金曜日 昼休み							
個別説明会（日時・場所）	水・木・金曜日 昼休み 3519 研究室							
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	11/6	11/13	11/20	11/27	12/4	12/11	12/18
	可否	○	○	○	○	×	○	×
	場所	2306	2306	2306	2306		2306	
2024 年度担当科目	基礎簿記演習、財務諸表分析、公会計、行政評価、知の探究、 知のリテラシー							
選抜方法	定員超過の場合は、成績および志望動機をもとに判断する。							
ゼミナール紹介	<p>本ゼミは「財務会計」をテーマとする。</p> <p>教員が与えたテーマについて学生が調べ発表する形式と企業等の財務諸表分析、日経新記事深読み発表を交互に行う。各テーマでは、基本書・参考書の他、各種会計基準等の原本に必ず触れることを心がけている。</p> <p>ゼミ在籍中に日商簿記 3 級試験に合格することがゼミ生に課せられる最低限の課題である。</p> <p>評価方法は、ゼミナールへの参加、授業への取り組み、課題の提出、日商簿記 3 級の資格取得等により評価する。無断欠席は認めない。</p> <p>ゼミは、学生自らが調べ考え、発表する場であることを肝に銘じること。</p>							

ゼミナール紹介

担当者名	石塚 浩							
e-mail アドレス	ishizuka@bunkyo.ac.jp							
研究室	3410 研究室							
在室曜日・時限	月1・2 火5 水1・2 金1・2							
個別説明会（日時・場所）	実施しない。							
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	11/4	11/11	11/18	11/25	12/2	12/9	12/16
	可否	○	×	○	○	○	○	○
	場所	2106		2106	2106	2106	2106	2106
2024 年度担当科目	人間と経営学 経営管理論 I・II 組織デザイン論							
選抜方法	志望書と成績にて選抜する。							
ゼミナール紹介	<p>グローバル化が進み、IT の継続的な発展によって将来、今ある仕事のいくつかは消滅するといわれます。今後、人間に求められる仕事は、答えのない課題を創造的に解決することで、場合によっては、課題そのものが与えられていないこともありえます。</p> <p>このゼミナールでは、経営戦略を考えることをテーマにしています。経営戦略とは会社を発展させる方法のことです。最近では会社以外に、自治体などの非営利組織も対象です。この経営戦略について「考えること」「議論すること」を徹底的におこないます。未来で不可欠な人材になってもらうためです。</p> <p>経営戦略の理論や手法を学んだうえで、実際の事例をみていきます。この会社の戦略行動は、自社並びに業界にどんな影響をもたらすのか。自分が経営者なら、どう判断するか。担当部署の人員であるなら、何をどう提案するか。これらがテーマになることが多いです。加えてグループワークを行います。ひとりで解決できるビジネスや社会の問題は少ないです。じっくりと議論することで、問題の本質がみえ、解決策がみつきやすくなります。ほんものの議論は創造的な結果をもたらすからです。</p> <p>本ゼミでは、卒業論文の執筆を求めます。</p>							

ゼミナール紹介

担当者名	上山 晋平							
e-mail アドレス	shinpei_kamiyama@bunkyo.ac.jp							
研究室	3520							
在室曜日・時限	金曜日・3、4 限							
個別説明会（日時・場所）	11/20（月）4 限・2206 演習室							
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	11/4	11/13	11/18	11/25	12/2	12/9	12/16
	可否						○	○
	場所						2206	2206
2024 年度担当科目	基礎簿記演習、企業会計、管理会計論Ⅰ・Ⅱ、原価計算Ⅰ・Ⅱ、知の探求、ゼミナールⅠ・Ⅱ							
選抜方法	申込人数によっては抽選を実施する。							
ゼミナール紹介	<p>本ゼミナールでは、主として管理会計、原価計算およびキャリア形成の方法について学びます。</p> <p>3 年生の春学期は、基本書のテーマごとに担当者を決め、レジュメを PowerPoint で作成、報告頂き、ゼミ生間で討論を行います。適宜、演習の時間を設け、計算の習得を行います。ゼミ生の希望によっては、日商簿記検定試験 2 級取得に関する授業を行います。また、本格的な就職活動に向けて、就業体験のできる夏期インターンシップ参加に向けて、準備を進めて参ります。</p> <p>秋学期は、管理会計のより専門的な分野となる、企業価値評価を含む経営分析の方法について学びます。また、より実践的な能力を身に付けるため、企業にご協力いただき、インタビュー調査を行う予定です。</p> <p>4 年生は、各人が興味を持ったテーマについて研究、報告をしていただきます。任意で卒業論文を作成していただく予定です。最終的に、ゼミナールの履修を通じて、自らの意見を自分の言葉で表現できるようになることを目的とします。</p> <p>ゼミナールの雰囲気は、全体的に真面目で和やかです。ゼミ生が協力しながら授業を進めているように感じます。とくに計算演習の時間には、互いに教えながら進めているようです。この雰囲気を維持できるようにしていければと思います。ゼミナールは、学生生活の中で互いに啓発し合える貴重な場です。協力し合って有意義な時間を過ごしましょう。</p>							

ゼミナール紹介

担当者名	金 必中(キム ピルチュン)	
e-mail アドレス	pjkim@bunkyo.ac.jp	
研究室	3535	
在室曜日・時限	月・3限、木・2 & 4限	
個別説明会（日時・場所）	月曜日 12:30～14:00・3535室 木曜日 11:30～13:00・3535室 ※ 希望者はメールでご連絡ください。	
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	ゼミ見学日は設定していません。 個別説明会(11月14日～12月19日予定)を活用してください。
	可否	
	場所	
2023年度担当科目	マーケティング、マーケティング戦略、マーケティング戦略事例研究、 マーケティング・リサーチ、マーケティング・リサーチ演習、 マネジメント問題解決演習、知へのナビゲーション	
選抜方法	提出書類、成績と面接等を総合的に判断します。	
ゼミナール紹介	<p>金ゼミでは、マーケティング戦略と流通に関連するさまざまなテーマについて勉強する。企業経営やマーケティング、流通、オンライン・マーケティング、消費者に関する諸問題について幅広く具体的に理解するとともに、マーケティング戦略立案の専門的な知識とノウハウについて勉強することを、目標とする。</p> <p>ゼミ I は、事例研究と文献の輪読を通じて知識体系を整いながら、ゼミ参加学生の関心分野を中心に多様なテーマを取り上げて、調査研究と発表を通じて有効なマーケティング戦略の立案と実行について学ぶ。必要に応じて企業や市場の見学も行い、環境変化と分析、実戦的な知識と調査分析手法についても勉強し習得して、ゼミ生の問題解決能力やプレゼンテーション能力を高めるとともに、ゼミ生全体のレベル・アップを図る。</p> <p>マーケティング研究は人間の研究でもあり、ゼミの活動やその成果はゼミ生のリレーションシップとチームワークが大切だと考える。したがって、ゼミでは、やる気と誠実さ、マーケティング研究に強い興味や関心をもち、真面目に学問探求に取り組む意思と姿勢をもっている学生達の参加を求める。</p> <p>追記、金ゼミでは、先生が一方向的に魚を差し出すようなやり方はしない。ゼミ生自身が、何魚を釣り上げるかどのように釣り上げるか、を考えて体得するやり方を取り入れる。</p>	

ゼミナール紹介

担当者名	首藤 洋志					
e-mail アドレス	shuto@bunkyo.ac.jp					
研究室	3414 研究室					
在室曜日・時限	火、水、木。事前にアポイントのメール連絡後、個別相談日時等の調整を行う。					
個別説明会(日時・場所)	11/27(水)を除く授業終了後に、ゼミ生と教員によるゼミ説明会を実施する。参加希望者は、ゼミ見学に参加することを推奨。					
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	日付	11/6 水:1 限 通常ゼミ	11/20 水:1-2 限 3-4 年コラボゼミ	11/27 水:4 限 ゲストゼミ	12/4 水:1 限 通常ゼミ	12/18 水:1 限 通常ゼミ
	場所	ゼミ見学(+ゼミ説明会)の参加希望者は、希望日の 3 日前までにメール(学籍番号、氏名、希望日を記載)で連絡すること。ゼミ見学人数確定後、詳細を連絡する。				
2024 年度担当科目例	財務会計論、基礎簿記演習、企業会計、中級簿記、デジタル表現基礎、監査論					
選抜方法	①ゼミナール見学状況、②Google フォームに記載の志望動機、及び③成績(GPA)を総合的に勘案して選抜を行う。なお、必要に応じて面接を行うことがある。					
ゼミナール紹介	<p>概要</p> <p>《基礎》 財務会計・国際会計(IFRS)・財務諸表分析 学術論文の精読 [チームプレゼン→Q&A→ディスカッション] 財務諸表(経営)分析 [チームプレゼン→Q&A→ディスカッション]</p> <p>《発展》 会計(財務報告)×経営(ダイバーシティ、サステナビリティ及びパーパス) 研究+発表(主に秋学期。GOAL は International Seminar での発表。)</p> <p>《通年》 輪番読書 [個人読書プレゼン→Q&A→ディスカッション]</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ ゼミの仲間と協働し、多様性を受け入れる。 ➢ 主体的に考え、積極的な姿勢でプレゼンとディスカッションに参加する。 ➢ 財務諸表の分析手法を学び、財務諸表を読むことができるようになる。 ➢ 各自半期ごとに目標を定めて、その目標達成に向けて努力する。 ➢ 4 年次には、卒業論文を執筆する。 <p>教員が大事に考えていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ ゼミの主役はゼミ生。ゼミに対する前向きな姿勢・意欲を大切に。 ➢ 一生懸命学び、仲間と切磋琢磨しながら挑戦し、大きく成長する意識をもつ。 ➢ 社会人になるための基礎的な礼儀作法を習得し、社会人的心構えをもつ。 ➢ 同学年のゼミ生、先輩ゼミ生(4 年生・卒業生)とのつながりを大切にする。 ➢ 学びも遊びも全力で! <p>イベント・企画</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 本ゼミに参加する学生は、2 月に開催される International Seminar(日韓ビジネスプレゼンテーションセミナー)における発表を年間目標とする。 (参考)2024 年:北九州市(福岡県)で開催。2025 年:釜山(韓国)で開催予定。 ➢ ゼミ生の希望に基づき、①アカウンティングコンペティションへの参加[11-12 月]、②ゼミ合宿、③華又祭への出店、④懇親会、⑤登山等を企画する。 <p>ゼミ公式 HP</p> <p>https://www.bunkyo.ac.jp/faculty/business/learn/seminar/class17/</p>					

ゼミナール紹介

担当者名	鈴木 誠							
e-mail アドレス	mcsuzuki@bunkyo.ac.jp							
研究室	3501 研究室							
在室曜日・時限	水曜日・木曜日・金曜日の昼休み							
個別説明会（日時・場所）	ゼミ見学の際に個別に説明します							
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	11/6	11/13	11/20	11/27	12/4	12/11	12/18
	可否	可	可	可	否	可	可	否
	場所	3301	3301	3301		3301	3301	
2024 年度担当科目	企業と市場の経済学、ファイナンス、応用ミクロ経済学、産業組織論、知のリテラシーほか							
選抜方法	<p>① 前提科目を履修していること（履修していない場合は要相談）</p> <p>② 選抜では GPA を考慮します</p> <p>③ 責任を持って勉強する意欲を有する学生を採用します</p>							
ゼミナール紹介	<p>ゼミナールは主体的に学修・理解を深めることを目的として、以下を行います。</p> <p>① 専門性を高めるために：海外のテキスト(英語/日本語訳)を利用します</p> <p>毎回、担当する学生 2-3 人が発表し、発表箇所について深く掘り下げて全員で議論します。発表者は担当の範囲における質問を想定して、発表する範囲をしっかりと理解し、発表することが求められます。</p> <p>これまでは英語のファイナンスのテキストを輪読していましたが、今年は準備としてイングランド銀行が作成した「経済がよくわかる 10 章」という本を輪読しています。準備が整い次第、ファイナンスのテキストに挑戦する予定です。</p> <p>※基礎知識がなくてもやる気があれば大丈夫です。</p> <p>② 希望した就職ができるように：SPI をしっかりと学習します</p> <p>ゼミ I の後期では SPI のテストを定期的実施します。就職試験に利用される試験は SPI だけではありませんが、SPI はいわば基礎なので、基礎力を強化するためにも有効です。ただし、学習は原則各自で行いますが、判らないところは説明する形態で行います。</p> <p>④ 日々の生活が充実するように：夏季合宿をします(9 月上旬予定)</p> <p>所属する学生を対象としたゼミ合宿を行います。合宿地は山形県の最上町という静かで自然豊かな農村です。農村で約 1 週間程度の農作業を通して、大切な食料がどのようにして生産・出荷されるかを体験学習します。また、地元の農家の方々との交流は都会では得られない貴重な体験です。</p> <p>⑤ 日常の時間は大切に：授業期間に飲み会や懇親会などはしません</p> <p>通常の授業期間は生活のリズムを重視します。したがって、ゼミナールの授業以外で懇親を目的として、飲食を伴う会合は原則として行わない予定です。</p> <p>以上</p>							

ゼミナール紹介

担当者名	高良 佑樹							
e-mail アドレス	y-takara@bunkyo.ac.jp							
研究室	3433 研究室							
在室曜日・時限	木曜 3 限							
個別説明会 (日時・場所)	説明会希望者の数に合わせて対応する, 希望者は必ず上記アドレスにメールを送ること.							
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	日付	11/6	11/13	11/20	11/27	12/4	12/11	12/18
	可否	○	○	×	○	○	×	×
	場所	1104	1104		1104	1104		
2024 年度担当科目	基礎統計, 基礎統計演習, 統計学概論, 統計モデル分析, 経済データ分析, プログラミング, ビッグデータ・AI 演習							
選抜方法	志望動機および成績 (GPA 等) から総合的に判断する.							
ゼミナール紹介	<p>本ゼミナールでは<u>経済データ分析の手法</u>, およびその結果に基づいて<u>議論を行う力を養成する</u>ことを目標とする.</p> <p>近年における ICT 技術の進歩によって, 様々なデータ分析手法を比較的容易に実行することが可能となってきており, データ分析は我々の生活において身近なものとなりつつある. 社会においても, たとえば行政において「証拠に基づく政策立案(Evidence Based Policy Making, EBPM)」の重要性が取り上げられているように, <u>データを用いた議論を行うスキルは今後必須のスキルとなる</u>ことが予想される.</p> <p>本ゼミナールでは<u>経済データを分析する手法</u>を学ぶとともに, データ分析によって得られた結果を用いて<u>議論を行う力</u>や, 分析結果の妥当性を判断する力を養成する.</p> <p>具体的には, 以下のスケジュールでゼミを行う.</p> <p>ゼミナールⅠ前期: 「因果推論」に関するテキストの輪読 ゼミナールⅠ後期: PC を用いたデータ分析手法の実践演習 ゼミナールⅡ: 卒業研究に向けたデータ分析の実践</p> <p>その他外部講師による講演会や, 希望に応じて懇親会やゼミ合宿(国内 or 国外)も実施する予定である.</p> <p>「経済データ分析」ときくと難しそうな印象を受けるかもしれないが, 実際にはこれを学ぶことで「テレビを見ると学力は下がるのか」「良い大学に行くと年収はあがるのか」といった<u>日常生活で直面する問題に対して正しく向き合う</u>ことが出来るようになる. <u>且日常生活の諸問題について深く取り組んでみたい方は, ゼミ見学もしくは説明会に参加することをすすめる.</u></p> <p>なお担当教員は<u>文化に関する統計分析</u>(音楽, 映画, 芸術鑑賞, コンテンツ産業等)に取り組んでいる. <u>これらに興味がある方にもゼミ見学か説明会への参加をすすめる.</u></p>							

ゼミナール紹介

担当者名	田中 克昌							
e-mail アドレス	k.tanaka@bunkyo.ac.jp							
研究室	3510 研究室							
在室曜日・時限	水曜日 1 限・2 限							
個別説明会（日時・場所）	ゼミ見学のみです。ゼミ見学は田中宛（上記 e-mail）に事前連絡ください							
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	11/6	11/13	11/20	11/27	12/4	12/11	12/18
	可否	○	○	○	—	○	希望に応じて対応	卒論発表会
	場所	3302 1 限～	3302 1 限～	3302 1 限～	—	3302 他 1 限～	3302 他 1 限～	未定
2024 年度担当科目	経営戦略論、情報化戦略、ビジネスモデル設計、ベンチャー企業戦略論、プログラミング、ゼミナールI、ゼミナールII、知の探究、知の基礎能力							
選抜方法	志望時の文章、ゼミ見学、GPA 等から総合的に判断します							
ゼミナール紹介	<p>ゼミナールでは、学生が自らのミッションやパーパスを設定したうえで、実践的なワークショップに取り組みます。具体的には「2030SDGs ワークショップ」や「2050 カーボンニュートラル・ワークショップ」等を通じて、世界と私たちとのつながりを実感し、ビジネスを通じて社会に貢献します。</p> <p>丸亀製麺・コナズ珈琲などをグローバル展開するトリドール社主催「持続可能ビジネスコンテスト」にゼミ生全員で取り組み、2年連続「最優秀賞（優勝）」を獲得しました。「産学連携ビジネスコンペティション」でも入賞しました。</p> <p>こうしたビジネスコンテストでは大学で学修した経営学（経営戦略論やイノベーションなど）の知識を活かして、新商品開発や事業戦略について検討し、他大学とも競い合い、自分らしさを発揮して提案する力が身に着きます。</p> <p>※「華叉祭（11月9日(土)12:00～）」では、ビジネスコンテストの優勝賞品として丸亀製麺のキッチンカーが来訪し、うどん 200 食を無料で提供します。</p> <p>次年度以降も対外的なビジネスコンテストへの出場を通じて、企業と連携し、学生が提案できる機会を設けていきます。</p> <p>また、ゼミ合宿（沖縄等）、他大学との合同ゼミ等の企画も用意しています。</p> <p>多様かつ熱心な学生と学ぶ機会を共有できることを楽しみにしています。</p> <p><田中ゼミ紹介ホームページ> https://www.bunkyo.ac.jp/faculty/business/learn/seminar/class21/</p>							

ゼミナール紹介

担当者名	西川 みな美							
e-mail アドレス	mnishikawa@bunkyo.ac.jp							
研究室	3411							
在室曜日・時限	火曜日 4 限 ※そのほかの曜日・時限については事前にご連絡ください。							
個別説明会（日時・場所）	個別に対応するので、上記アドレスにアポイントの連絡をお願いします。							
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	11/6 (11/4)	11/13	11/20 (11/18)	11/27 (11/25)	12/4 (12/2)	12/11 (12/9)	12/18 (12/16)
	可否	×	×	×	×	×	×	×
	場所							
2024 年度担当科目	デジタル・マーケティング、新製品開発、ブランド・マネジメント、流通論							
選抜方法	志望理由書、成績、面接（必要に応じて実施）							
ゼミナール紹介	<p>◎到達目標：流通・マーケティングに関する研究、プレゼン、様々なゼミ活動に、ゼミ生ひとりひとりが主体的に取り組むことで、成長する。</p> <p>★何を学ぶゼミ？</p> <p>流通・マーケティングを研究するゼミです。日ごろ、この企業のマーケティング活動はどんな意味があるのだろうか？、消費者はこれにどんな反応を示すのだろうか？、といった素朴な疑問を抱いた経験はだれしもあると思います。研究とは、このような現実の流通・マーケティングに関する問い（疑問）を立てて、先行研究やデータを集め、問いに対する答えを明らかにするプロセスです。マーケティングの知識を吸収するだけでなく、それを使って、自らの疑問を探究することが、このゼミの目的であり醍醐味です。</p> <p>★どんなことに取り組む？</p> <p>ゼミの年間目標として、3 年生では学外の学会等でグループ研究の成果を発表し、4 年生では各人が卒業論文を提出します。そのために、春はマーケティングの基礎固めのテキスト・論文の輪読からはじまり、グループ研究のテーマ決め、秋にはグループ研究の調査・発表・論文作成に取り組めます。</p> <p>★本ゼミの特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モットーは主体的に学ぶ。一人一役（チーム長・企画・渉外、等）を担い、ゼミ生全員でゼミを運営します。2025 年度から開講されるので、現 2 年生が 1 期生です。ゼミ生同士・教員が話し合い、協力しながら、ゼミという場所を 1 から作っていきます。 ・基本的には水曜日 1 限にゼミを行います。 ・毎週のゼミではグループ・個人の発表があるため、ゼミ以外の時間にそれぞれ準備をしてゼミに臨みます。夏合宿や他大学との合同ゼミ等もあります。 <p>※以下のリンクにゼミの詳細をまとめました。</p> <p>https://docs.google.com/document/d/1UC1SLqFhsro8n6dJxzTkSdG6HpDnzI1y/edit?usp=sharing&oid=113987988149390329530&rtpof=true&sd=true</p>							

ゼミナール紹介

担当者名	根本 俊男							
e-mail アドレス	nemoto@bunkyo.ac.jp							
研究室	教育研究棟 4 階 3422 研究室							
在室曜日・時限	水曜日・金曜日							
個別説明会（日時・場所）	特に説明会は実施しませんが、個別相談で対応します。研究室のドアを気軽にノックしてください。水・金曜日に在室していることが多いです。							
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	11/6	11/13	11/20	11/27	12/4	12/11	12/18
	可否	×	×	×	○	○	○	○
	場所				1204	1204	1204	卒研発表会 会場
2024 年度担当科目	スケジューリング，ネットワークモデル分析 A/B，最適化モデル分析，問題解決技法演習，情報数理特論							
選抜方法	「ネットワークモデル分析 A」及び「同 B」の単位修得済または現在履修中で単位修得見込みの状況であることが志望の前提条件です。志望者多数の場合は、「ネットワークモデル分析 A/B」の授業参加状況と成績，そして、「スケジューリング」の履修状況を基に選抜します。							
ゼミナール紹介	<p>現代社会で重要な能力として広く認知され、強く求められている能力の一つは「問題解決力」です。根本ゼミナールはこの「問題解決力を有した人材」を育てるゼミナールです。ゼミナールで用いる主な道具は、科学的手法で問題解決に切り込むオペレーションズ・リサーチ(OR)です。ゼミナール志望の前提条件となっている「ネットワークモデル分析 A/B」など DS/OR 分野の講義群を通じて OR の基礎はすでに習得していると思います。それらの知識を 3 年時の学習でさらに増強し、ゼミナールでさらに深め、総合的に結び付けて思考する訓練を通じて、様々な課題の解決に向き合える能力獲得を到達目標とします。</p> <p>このように書くと、理論的なイメージを抱くかもしれません。しかし、問題解決力の養成には、理論だけでなく実際の課題に取り組んでみるのが効果的です。そこで、ゼミナールでは手と頭の両方を実際に動かし、様々な問題解決の実践を通じて問題解決力を養います。</p> <p>具体的には、3 年次前半では主に問題解決手法に関する専門書に沿って各自が発表し、議論を通じて問題解決に必要な基礎知識や基礎ツールの使い方の補強を行います。あわせて、物事の見方の図解法、他者とのコミュニケーション手法のトレーニングも行います。夏休みには、全員参加で夏合宿を予定しています。3 年次後半では、実習で理解を深めます。問題解決に利用できるソフトウェアも扱います。学外での政策/ビジネスコンテストへチャレンジするゼミ生もいました。4 年次には、各人が設定した問題解決に資するテーマの下で卒業研究に取り組み、大学 4 年間の学びの集大成となる卒業論文をまとめます。</p> <p>新しいことに挑戦したり、わからないことを思考したりするのが嫌いではない。ただ、今までは具現化が足りなかったかもしれない。しかし、「自分で取り組んだ！」と実感できる創造的な活動を通じて大学を楽しみたい（卒業したい）との願望を持っている方にお勧めしたいゼミナールです。</p>							

ゼミナール紹介

担当者名	堀田 敬介							
e-mail アドレス	khotta@bunkyo.ac.jp							
研究室	3530							
在室曜日・時限	月・火・(水)							
個別説明会 (日時・場所)	単独の説明会を行わない。質問等はメールにていつでも受付。ただし、メールの書き方は気をつけよう。研究室在室時はアポなしで質問に来てても良い							
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	日付	11/6 (11/4)	11/13	11/20 (11/18)	11/27 (11/25)	12/4 (12/2)	12/11 (12/9)	12/18 (12/16)
	可否	×	×	×	×	×	×	×
	場所							
2024 年度担当科目	「問題解決技法入門」「問題発見技法」「知の基礎能力」「知の探究」「意思決定科学」「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」「卒業論文」							
選抜方法	前提科目を満たしていること。定員を超えた場合、前提科目の成績上位の学生を優先する。面談等は実施しない							
ゼミナール紹介	<p>企業や公的機関、組織や社会には、解決を待っている問題がたくさん潜んでいる。より良い活動や組織運営のためには、それらの問題を見つけ出して（問題発見）、きちんと定義し（問題定義）、改善のために適切なモデル化を行い、上手く解き、得られた解を評価し、解決策を提示する（問題解決）、という一連の意思決定過程を要する。昨今、巷ではAIが話題であるが、そこで重要な影の技術の1つが最適化である。</p> <p>本ゼミでは、1, 2 年次に得た基礎知識を再確認し、最適化やシミュレーションを用いた問題発見・問題解決の勉強に取り組む。これらの手法について、その前提となる知識の再確認・演習と、使いこなすための講義・演習を行う。学生が、現実の事例や、将来、自身に関わる問題について、問題発見、モデル化・定式化から解の導出、評価・改善・提案を一人で実施できるよう、最適化やシミュレーションの技術・知識をしっかりと身につけることを目標とする。</p> <p>ゼミに所属した際には、「DS/OR 系」のうち以下 5 科目を履修することを課す。これらは全て、本ゼミの目標達成に必要な知識・技術であるので、それぞれしっかり取り組み単位取得して欲しい。</p> <p>標準履修 2 年次の 3 科目（未修得の場合）</p> <p>3 セメ「問題発見技法(2)」「スケジューリング(2)」「ネットワークモデル分析 A(2)」</p> <p>4 セメ「ネットワークモデル分析 B(2)」</p> <p>標準履修 3 年次の 2 科目</p> <p>5 セメ「最適化モデル分析(4)」</p> <p>6 セメ「意思決定科学(2)」「問題解決技法演習(2)」</p> <p>※ただし、卒業に必要な必修/選択必修科目と曜日時限が重なる場合は、そちらの科目を優先してよい</p>							

ゼミナール紹介

担当者名	山崎 佳孝							
e-mail アドレス	yyama@bunkyo.ac.jp							
研究室	3412							
在室曜日・時限	月曜日の 12 時～13 時 （研究室に来る場合、事前に Gmail で連絡してください）							
個別説明会（日時・場所）	① ゼミ見学会で時間があれば実施 ② 希望により実施、予約制。（Gmail で連絡してください）							
ゼミ見学可能日 （日時・場所）	日付	11/4	11/11	11/18	11/25	12/4	12/9	12/16
	可否	可	否	可	可	可	否	否
	場所	2304		2304	2304	Aitade Hall		
2024 年度担当科目	知の基礎能力（プレゼンテーション担当）、経営組織論、多文化と経営、人的資源管理論、人材開発論、リーダーシップ開発							
選抜方法	選抜方法は書類審査が中心です。書類審査の内容：①申請書、②成績表 ※書類審査で確認を要する項目がある場合、面談や連絡をすることもあります。							
ゼミナール紹介	<p>① 山崎ゼミは、すべて対面授業です。ゼミ生同士の対面によるコミュニケーションを大切にしています。グループ内でのコミュニケーションからの学び、クラス全体でのコミュニケーションからの学び、プレゼン経験からの気づきと振り返りを通した学びが大切だと考えています。コミュニケーション能力やプレゼンテーションを向上させたい方は大歓迎です。プレゼンは苦手だけれども上手になりたい人。チーム力を伸ばしたい人。グループでのコミュ力を伸ばしたい人たちです。</p> <p>② 山崎ゼミの扱うテーマは、グローバリゼーション、異文化マネジメント、国際人材開発です。具体的にはグローバル人事、外資系企業、異文化コミュニケーション、国や企業文化、グローバルリーダーシップです。テーマ別の関連資料にもとづいてグループ・プレゼンを行い、知識の習得を図ります。資料を読むことも大切ですが、グループで話し合い、ゼミで発表することで理解を深めます。秋学期では、グループで研究調査を進め 12 月 4 日に Aitade ホールで発表会を行います。関心がある方は見に来てください。</p> <p>③ その他の主な活動として、3 つ紹介します。（1）「異文化コミュニケーション能力アップ」のために、外国人講師を招いて基礎編と応用編の講座を行っています。（2）「課外活動」と「合宿：湘南国際村」です。（3）「国際ニュース」の紹介を行います。これは、①と②に関連した活動です。1 分間程度でニュースの紹介と意見を発表します。これはプレゼン能力の向上（人前での発表に慣れること）と世界のニュースについての知見を広げることを目的としています。</p> <p>ゼミ生同士でコミュニケーションを希望している人、海外・異文化関連について興味がある人、グループやチームでの一緒に活動に関心がある人は歓迎します。経営学部 HP のインスタグラムで山崎ゼミを紹介しています。参考に！</p>							

ゼミナール紹介

担当者名	山本 颯一郎							
e-mail アドレス	yamamoto@bunkyo.ac.jp							
研究室	3427 (3号棟 [研究室棟] 4階)							
在室曜日・時限	月曜 2 時限、木曜 4 時限							
個別説明会 (日時・場所)	(実施しない)							
ゼミ見学可能日 (日時・場所)	日付	11/6	11/13	11/20	11/27	12/4	12/11	12/18
	可否	○	○	○	○	○	○	○
	場所	1105	1105	1105	1105	1105	1105	1105
2024 年度担当科目	民法Ⅰ、民法Ⅱ、会社法、経済・経営活動と法、情報と法、知の探究							
選抜方法	応募の要件は 民法Ⅰの単位取得 。応募者数が定員を超えた場合は、法律系科目の成績、全体の成績、取得単位数の多寡、希望する理由（面接を行うことがある）等を総合的に見て選抜する。							
ゼミナール紹介	<p>○ゼミの共通テーマは、「情報通信ネットワークにかかわる法律を学ぶ」。インターネットにかかる法律問題を、広く学んでいく。ネットに関するさまざまな法律・事件・事例について取り上げ、検討し考察する。すでに一定の解決を見た問題点について、法的論点を明らかにして可否を論じる。未解決のものは、妥当な解決策を模索していく。場合により諸外国の法制度等も参照する。</p> <p>○ネットワーク法（情報法）の基礎的文献の講読より始め、文献の読み方、リサーチのしかた、プレゼン・議論・レポート作成等のスキルを磨きつつ、ネット法の基礎的知識をひと通り網羅する。そのうえで、各個に追究するテーマを設定し、ヨリ深く探究する。</p> <p>○情報法にかかる法分野は多岐にわたるが、それ故本学にて開講される法律系科目は可能な限り履修・学修すること。特に民法Ⅰは必須である。民法Ⅱ、情報と法、経済・経営活動と法、労働法 A・B、法と行政Ⅰ・Ⅱなども履修すべきである。</p> <p>○ゼミナールは、一同に集まり報告・質疑応答・議論する。そのため授業時間外で周到な準備が必要である。授業時間より多くの時間と労力をかけてリサーチ等を行うのが前提である。座学よりも積極的・能動的にならなければゼミで学ぶ意味はない。ゼミでは、率先して質問し議論に参加することが求められる。</p> <p>○定期試験等は実施しない。普段の課題への取り組み、個別の報告・発表、質疑や議論、期末の報告書等を総合的に評価する。</p>							